

カタツムリのかんさつ

小坂井東小・2年 やまぐち はるき

ぼくが、カタツムリと出会ったのは、四月のおわりごろ、雨がふったつぎの日でした。学校の帰り道、カタツムリが道のまん中にいました。車にふまれそうだったのでたすけてあげました。手でさわると、目が光ってかわいかったので、家に三びきつれて帰りました。

家でママに、

「かつてもいい。」

と聞いたら、

「いいよ。」

と言ってくれたので、かうことにしました。まず、カタツムリの家を作りました。ネットですらべると、土とかれはと石と木がいることが分かりました。近くの公園でざいりようをさがしてお家を作りました。そして、水のシャワーをかけたら、お家のかんせいでした。そこにカタツムリを入れると、天じょうや石にのっておにごっこしているみたいでした。つぎに、にんじんときゅうりを入れました。のみこむみたいにくパクパク食べていました。ぼくは、三びきに名前をつけることにしました。元気な子は、げん。小さい子は、ちり。大きいけどはずかしがりやの子は、こう。

毎朝、えさをかえるのと水のシャワーをしました。そのときにぼくは、

「やっほ。元気かな。」

と声をかけました。カタツムリはぼくのほうを見て、元気だと言っているみたいでした。毎日見ていると、こうらのもようがこくなつてせいちようしているかんじがしました。お家のあちこちをうごきまわってかわいいなと思いました。

五月二十七日、虫かごの上にあなが空いていました。その中を見ると、白くて丸い小さなたまごを見つけました。ぼくは、すぐくびつくりしました。お母さんカタツムリがまちがって食べちゃうと聞いたので、白いたまごをわらないように、そつとやさしくスプーンですくいました。そのすくったたまごをちがう虫かごに入れました。六月のおわりごろ、かぞくがその虫かごをのぞいていると、いきなり、

「えっ、来て来て。」

と大きな声でぼくをよびました。いっしょに中を見ると、小さな白いたまごから小さくてかわいいカタツムリが出ていました。よつしや、赤ちゃんが生まれたとぼくは思いました。からも体もうめいでした。そのからの中に肉が見えてびっくりしました。つぎの日も生まれました。ぜんいん合わせたら、一五〇ぴきぐらいいました。一番大きいこうみたいになつてほしいなと思いました。

ぼくは、カタツムリにきょうみが出たので、しぜんかんさつ会にさんかしました。そこで、カタツムリはかせの話を聞きました。カタツムリの体には、ひみつがありました。いきをすうところのとなりの場しよで、うんちをしているそうです。食べたものの色のうんちをすると聞いて、ぼくの家のカタツムリもにんじんはオレンジ、レタスはみどりになったのを思い出しました。食べるものによって

色がかわるのでふしぎだなと思いました。ぼくが一番びっくりしたのは、目です。それは、光しか分からなくて、目の前の色も分からないことです。でも、ぼくのカタツムリは、ぼくの顔を見るので分かっている気がします。

ぼくは、カタツムリがとても好きになりました。カタツムリはかせの話を聞いて、カタツムリはしぜんの中でくらしただろうがしあわせなんだと分かりました。それで、さみしいけど、公園にがすことにしました。元気にしあわせにくらしてほしいです。でも、ぼくの虫かごには、八ひきの赤ちゃんカタツムリがまだいます。いろんな野さいを食べてどんどん大きくなっただけです。